

“道徳授業「14 歳の責任」の感想”

本文中にある刑法第四十一条とは「14 歳に満たない者の行為は罰しない」というものである。つまり、14 歳以上の犯罪は罰するということになる。また、2000 年の少年法改正では、刑事処分の可能年齢は「16 歳以上」から「14 歳以上」に、2007 年改正で、少年院送致の対象年齢は「おおむね 12 歳以上」と厳罰化が進んでいる背景がある。刑法で罰せられる年齢だから責任を持つべき、といった側面だけの理解ではなく、社会の一員、人間としての責任を自覚してもらいたい。

授業の感想

『14 歳の持つ責任とは、善悪の判断をきちんとして生活することだと思います。まだ 14 歳だからと言って、やっていいことと悪いことの区別ぐらいはできると思います。まだ子どもで、未来があるからと言って殺人をしてしまったりしては世間が許してくれません。相手の家族など、たくさんの人に迷惑がかかります。もし自分がされたらどうなるかと、人の気持ちを考えて行動することが大切だと思います。この道徳は、こういう過ちを犯さないようにするためにある授業だと思うし、学校は学校生活を過ごしていく中で、それらを身につけるためにあると思います。立派な大人になれるように、物事の善悪をしっかりとつけて、これから生活していきたいと思いました。また、やってはいけないことをしている人を見かけた時は、しっかりと注意していけるようにしたいです。』 (1 組)

授業の感想:「あなたはどんな大人になりたいですか」(5 組)

『信頼され、優しく、人の気持ちを考えられる大人になりたいです。人から信頼され、そして優しくしてあげたい。他の人の立場になり、思いやりのある大人になりたいと思いました。自分のためだけではなく、他の人のために何かをする、動くなど、しっかりと社会に向き合える態度でありたいと思いました。』

『私が小学校 1 年生の頃、6 年生がとても大きく、落ち着いて見えたことを覚えています。しかし、いざ 6 年生になってみると全く落ち着きは無く、予想していたものと違いました。私はそのような大人になりたいがありません。子どもが想像する「大人は自分が理想としている人物像」だと思います。だから、その人物像にできるだけ近づけるよう行動していきたいです。また、大人になるにつれて責任の重さが変わり、一つ失敗しただけでも大きな罰を受けてしまうことがあるかもしれません。だから、今のうちに多くの経験をして、「社会」というものを知っていききたいです。』

『自分の考えを持てる大人になりたいです。私の中での大人のイメージは、会社で人にどう思われるのが嫌だから言われた通りに動く、友達との関係が悪くなるのが嫌だから話を合わせるといったマイナスが感じます。自分の意見を言える時と言えない時がもちろんあると思いますが、それよりもまず自分の考えというものを大切にしなければいけません。それは子どもでも大人でも同じだと思います。いくら大人だとしても、人の意見に合わせてばかり、聞いてばかりではつまらないはず。私は大人になっても、子どものように楽しく生きるために、自分の考えを持つべきだと思います。この自分の意見が大人になって通用するのか、覚えているかもわからないけれど、子どもと大人について当たり前のような身近なことを考えられて良かったです。』